

⑥ LED道路照明とICT(情報通信技術)の活用

名古屋国道事務所管内には、交差点・カーブ区間等に道路照明施設を設置しており、交通安全施設としての機能を確保したうえで省エネルギー化を図っています。

平成23年度、道路照明施設の更新にあたり省エネルギー化の更なる推進を図るため、「LED道路・トンネル照明導入ガイドライン(案)」に基づいた、愛知県内で初めてのLED道路照明施設を名古屋市名東区(国道302号)及び豊田市(国道153号)で整備しました。

平成24年度より、名古屋市内の国道1・19・22・41号でLED道路照明灯の整備を本格化し、平成25年度以降その他の箇所でも順次整備していきます。これにより、65%程度の節電効果を期待することができます。

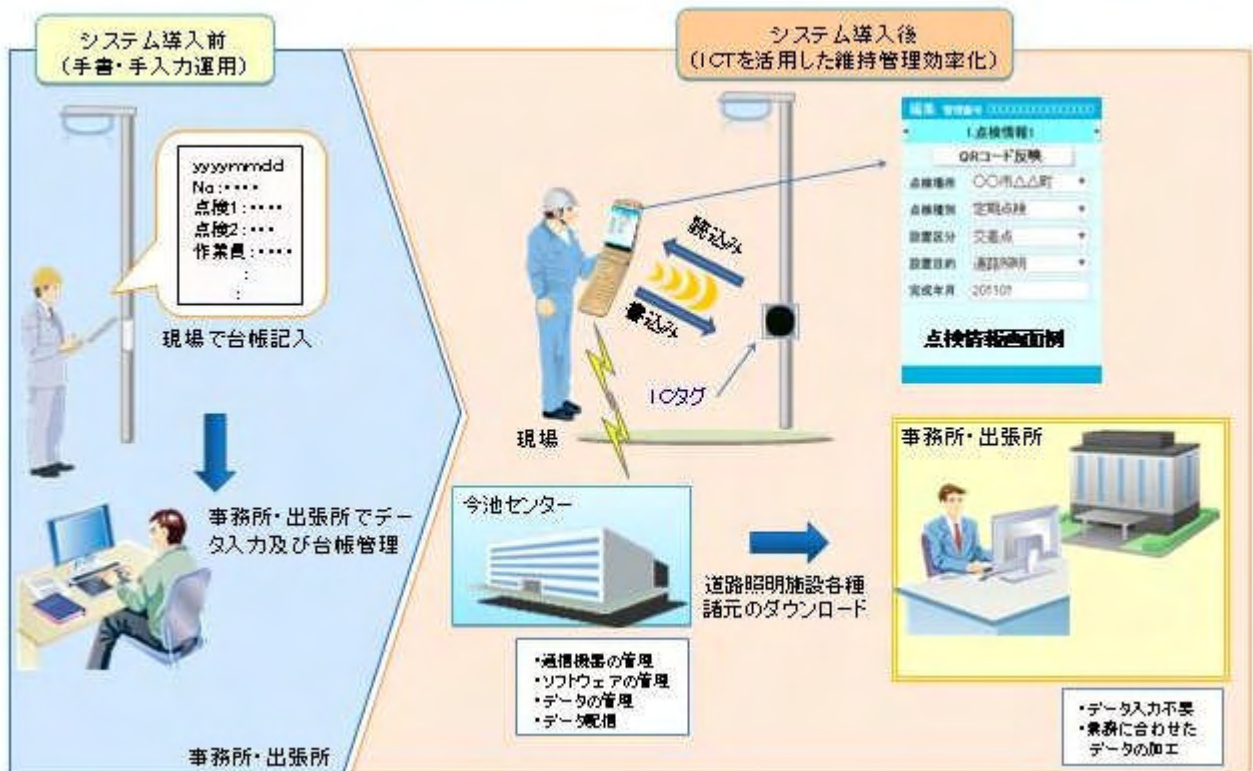


施工前(高圧ナトリウムランプ)



施工後(LEDランプ)

また道路照明施設の維持管理の効率化のため、ICタグ等のICT(情報通信技術)を活用していきます。これは道路照明施設の各種諸元を記録したICタグ等を道路照明柱に設置し、現場で携帯電話等の通信機器を用いて情報を読み書きすることにより、点検・補修作業を効率的に行っていくものです。



ICTを活用した道路照明施設の維持管理効率化イメージ

⑦ 維持管理の合理化・コスト縮減を実現する新型車両の導入

1) 既設橋の不可視部点検を目的に専用車両を導入

橋梁下から直接点検できない河川上の既設橋の橋面下部の損傷及び変状を点検する事を目的に名古屋国道事務所では平成20年度に橋梁点検用専用車両を導入しました。

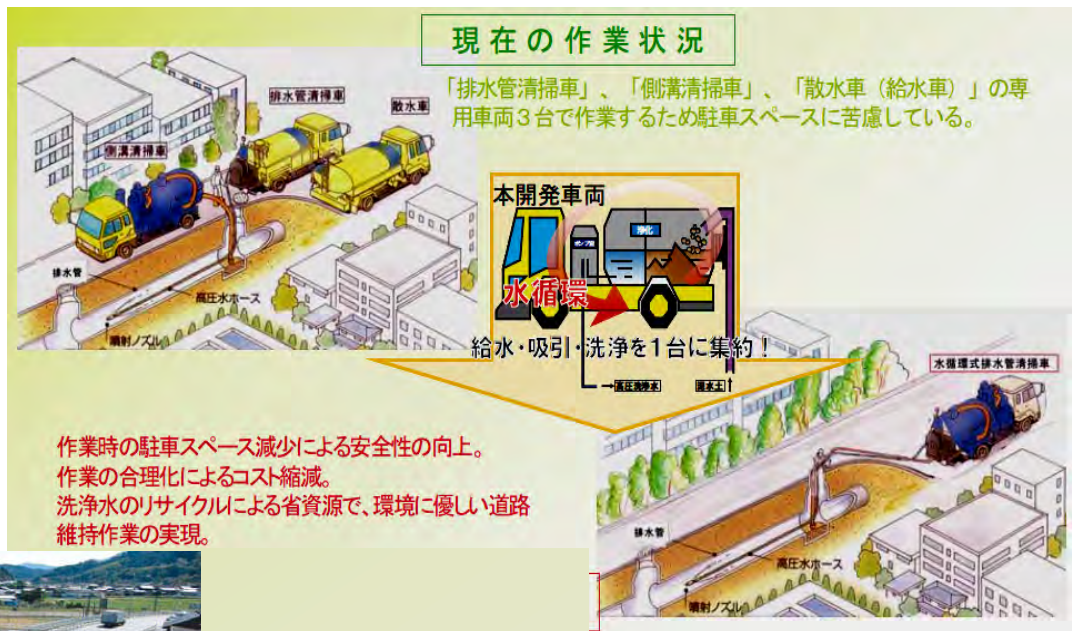
橋梁点検車(平成20年度導入)



橋梁点検状況(作業員の目視により損傷状況確認)

2) 側溝清掃作業を1台に集約した新型清掃車の導入

従来複数車両で実施していた道路側溝の清掃作業を1台に集約することで安全面や作業の効率化をはかる目的で平成24年に導入しました。



清掃作業状況

